

第16回つくば談話会 (対面+オンライン)

【演題】

少子化時代を迎えた大学教育と
筑波大学の取り組みについて



【講師】

坪内 孝司 先生

(筑波大学名誉教授・特命教授)

【日時】

2026年2月18日 (水) 14:00~16:00

【場所】

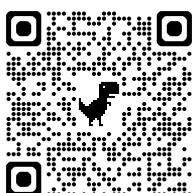
筑波大学 大学会館 マルチメディア室

【対象】

名誉教授の会会員、学内学生・大学院生・教職員、
茗渓会会員ほか (一般公開)

【要旨】

中教審から「知の総和向上答申」が昨年2月に公表されました。2040年頃に18歳の人口が2025年の7割程度に減少するという推計のもとに、国立大学においても、学士課程の定員や募集人員の見直しとともに大学院への進学率を向上させ、全体として学修者の総和を減らさずに知の総和が向上していくように提言しています。18歳人口の減少にもかかわらず学修者の総数を減らさないならば、留学生や社会人による在籍学生の多様化にも対応しなくてはなりません。筑波大学では、第4期中期目標・中期計画期間から、チュートリアル学修の導入を今後10年かけて行うことを計画し、実装のさなかにあります。本講演では、このような本学を取り巻く環境と、本学の実践の現状について話題提供をします。



主 催：筑波大学名誉教授の会
共 催：筑波大学、茗渓会
連絡先：meiyop-post@un.tsukuba.ac.jp

